

平成27年度(2015年度)市民公益活動センター 事業の実施状況 No.1

公募により選定した指定管理者「NPO法人市民ネットすいた」により、以下の事業を実施
平成27年度(2015年度)交流スペースを含む施設利用者は58,782人

- 1 施設の使用許可業務
会議室、事務ブース、メールボックス、ロッカー、物品棚、印刷機の使用許可及び利用料の徴収
- 2 相談事業
 - ① 一般相談：市民公益活動団体の運営に関する相談、市民公益活動への参加や市民公益活動団体による支援を希望する市民からの相談など
(随時、相談403件)
 - ② 専門相談：税理士による会計・税務相談(開催6回、参加1名)
 - ③ NPO法人相談：窓口で随時対応したほか、NPO法人入門講座終了後に個別相談に対応
- 3 情報提供・広報支援事業
 - ① ウェブサイト：Facebookを活用して当センターの開催事業案内、市民公益活動団体情報、施設運営に関する情報公開
 - ② ニュースレター：事業報告、特集(補助金交付団体紹介や市民公益活動としてのPTA活動紹介等)を掲載、4回発行(2,000部*3回、3,000部*1回)
配付先：市内で活動する市民公益活動団体、施設利用者、市の関連部署、市内公共施設、他市の市民公益活動センターなど
 - ③ ちらし同封サービス：ニュースレターを配付する際、市民公益活動団体のちらしも同封するサービス。団体・事業の紹介をし、市内に広めた。
配付先：市内で活動する市民公益活動団体、施設利用者、市の関連部署、市内公共施設、他市の市民公益活動センターなど
 - ④ ボランティアグループ・NPOガイドブック：冊子形式とウェブサイトの2種類発行(ガイドブックは隔年で作成、次回平成28年度(2016年度))
 - ⑤ メールマガジン：センターの事業案内、助成金情報等 2週間に1回
送付対象：市内で活動する市民公益活動団体、市民、事業者、行政

平成 27 年度（2015 年度）市民公益活動センター 事業の実施状況 No. 2

4 講座・研修事業

講座名	実施回数・内容		参加者数
市民公益活動入門講座	12 回	少人数の受講者を対象に市民公益活動の基本的なことを解説。個別相談にも対応。NPO 活動やボランティアグループのデビューのきっかけをつくった。	35 名
地域活動デビュー講座	2 回	転入者や独身者、リタイア層などこれまで比較的的地域になじみのない層の参加を重点に置いて想定した講座を開催。自主事業「eN カレッジすいた」と連動。	38 名
NPO 法人入門講座	4 回	NPO 法人制度について知ってもらい、市民公益活動団体の創設や法人化に役立ててもらおう。	19 名
会計・税務専門講座	3 回	専門家を講師に、記帳、決算処理、NPO 法人会計基準、税務等を解説。	11 名
団体情報発信講座	3 回	広報の一手段であるチラシの作り方について連続講座で学ぶとともに、広報の基礎となる考え方について講座を開催した。	51 名
財源確保講座	3 回	補助金・助成金、会員拡大、自主事業財源などをテーマにした講座。今年度は「市民ファンド」の立上げ方や仕組み、事業型 NPO の支援をしている日本政策金融公庫の融資制度についての講座を開催。また吹田市市民公益活動促進補助金の申請書の書き方や補助金交付団体の事例も交えた講座も開催。	50 名
NPO・ボランティアグループ運営講座	4 回	運営に欠かせないコミュニケーション力（エンパワーメント、対話力）について学ぶ講座やマイナンバーなど新制度に対応した講座を開催した。	76 名
地域コミュニティ運営講座	4 回	他市の地域運営のユニークな事例等を取り上げた地域づくりの参考になる講座。	97 名

平成 27 年度（2015 年度）市民公益活動センター 事業の実施状況 No. 3

5 交流・連携促進事業

交流・連携事業名	実施回数・内容及び目的		参加者数
かえっこバザール おとなスタッフ募集説明会	1 回	使わなくなったおもちゃを捨てずに再利用したことで、環境負荷を低減したと同時に世代間交流を通じて、地域の活性化を図った。イベントをお手伝いする「おとなスタッフ」の募集、ワークショップでダンボール装飾づくりを行い、イベントの盛り上がりを図り、新しい団体やスタッフを巻き込むなどを行った。企画運営は、ボランティア、市民公益活動団体などが参画する実行委員会方式で、行政、公共施設、教育機関、事業者などと協働して取り組んだ。また、大学のボランティアセンターや中学高校ボランティア部と協働し、学校教育の中で社会貢献を学ぶきっかけにもなった。	22 名
かえっこバザール ダンボール装飾づくりワークショップ	1 回		40 名
かえっこバザール 本番	1 回		約 740 名
団体交流会	3 回	共通の課題である資金不足、人材不足、活動拠点の確保などを抱える様々な分野の団体に集まってもらい、課題を共有、異業種団体のネットワーク強化や協働まちづくりの推進につなげる取組みとして開催した。	46 名
市民協働マッチング	随時	市民協働のニーズを受けて、分野やセクターを超えた連携・マッチングの支援を行った。今年度はエキスポシティのツタヤと市民公益活動団体のマッチングイベント、南山田デイサービスセンターの有効活用でのマッチングを行った。	—
現場で学ぶ団体運営学習会	随時	相談にて先駆的な活動事例を知ってもらうほうがよいと思われる相談者に見学可能な市民活動団体の活動を見てもらう機会を作った。	34 名
テーマカフェ	12 回	特定のテーマで自由に語り合う「カフェ」を開催し、関心のある人たちが集まる交流の場を提供。テーマ：「終活第 2 弾」「SNS との関わり方」「イマドキの働き方」「自分を活かす社会貢献」「アナログゲームナイト」「地図から見る防災まちづくり」等	194 名
「このゆびとまれ」の会	2 回	市民公益活動でやりたいことが具体的にある個人、何かやってみたいと思っている個人が集まり、既に活動している人の経験談を発表してもらい、やりたいことへつなげる機会をつくった。また、「認知症サポーター交流会」から生まれた「おれんじの和」の立ち上げ・運営支援を行った。	57 名
おすそわけマーケット	常設	ひと昔前なら日常にあった「おすそわけ」の習慣や近所づきあいをセンターで復活させるプロジェクト。おすそわけから始まる新しい地域コミュニケーションとして、利用者の層を広げることとなった。	—

*その他、東日本大震災により吹田市に避難された方の相談、法律相談などを行っている。

6 調査・研究・政策提言など市民公益活動の社会的環境整備を行う事業

市民自治の取組みに寄与するものとして作成。協働の意義や進め方をわかりやすく伝えることに主眼を置き、吹田市内の多様な主体が関わる先進的な協働事例をまとめ、取組みに関わる“人”や、活動の“プロセス”を中心に、協働の手引きとして活用いただけるようにした。3月31日、協働事例集「協働（コラボ）de ブラボ」発行。

平成 27 年度（2015 年度）市民公益活動センター 事業の実施状況 No. 4

7 施設運営について

- ① 利用者懇談会：施設利用者にセンターの運営や利用、サービスに関しての意見を出してもらい運営に反映。4 回開催
- ② ボランティア制度：登録ボランティア（ラコルタサポーター）がセンターと協力しながら、事業運営に携わった。また、単発・短時間で取り組める「ぷちボラ」の制度で、ボランティアが運営側としてラコルタ事業に参画できるような体制に取組むと共にボランティアの受け入れに協力してくれた団体の活動にも参加できる仕組みに取り組んだ。

8 自主事業

- ① コミュニティカレッジ 「eN カレッジすいた」
地域の課題解決や活性化に向けた市民公益活動を行う地縁団体やボランティア、NPO などの公共人材育成に取組み、次世代の市民公益活動の担い手を生み出す新しい学びの場として「eN カレッジすいた」を実施した。運営については、内部で担当者会議を設ける。また、受講者の中から運営に参画できるような仕組みも考える。
- ② 公民館企画運営委員研修
平成 27 年度（2015 年度）は 3 ブロックの公民館を対象に「住民が参加しやすい企画づくりとは」の内容で研修を実施。公民館の目的と企画運営委員の役割を確認してもらうのが目的。研修を行うことにより公民館を超えての交流ができ、課題の共有、それにより解決のヒントを得られ、また他市事例の情報を得、違いを知ることにより地域住民による企画運営により培われる市民力を認識し、委員自身が地域の資源であることを自覚してもらうことができた。